

下請けは一切やらない生産設備の製造事業 課題解決力を持つマルチプレイヤーを育成

生産用設備の製造事業者として1982年に創業。独自のパーツフィーダーや軽量で高精度な直交ロボットを開発。産業用ロボットを完全オーダーメイドで製造・販売する。開発・設計から部品加工・組立・調整作業の全工程を内製化することで、取引先の課題解決ニーズに素早く対応している。「現代のからくり工房」をスローガンに掲げ、自動車・食品・衣料等の様々な業界において生産性を劇的に向上させる自動化・無人化装置を展開している。

●所在地 茨城県日立市大和田町645

●電話/FAX 0294-52-6981/0294-52-3640

●URL <http://www.tmp-jp.com/>

●代表者 代表取締役 高橋 一雄

●設立 1982年

●資本金 5,000万円

●従業員数 40人



顧客の生産性を劇的に向上させる「現代のからくり工房」

精密なパーツフィーダー等の自社製品を活用し、更に画像処理装置や加工装置と組合せた独自のFA機器を開発。人手不足による顧客からの自動化・省力化要請を提案型で解決し、生産性向上に寄与している。また、顧客との直接取引を基本とし、アフターサービスは全て無料で行うことによって、取引先のニーズや要望をきめ細かく把握し、製品開発に活かしている。更に、同社はメーカーに部品や資材を納入する専門商社からも、助言を求められる機会が多く、こうした案件も受注基盤となっている。



自社開発のパーツフィーダー

企業城下町での独立経営

創業者である高橋一雄氏は、日立製作所のグループ会社のエンジニアとして勤務した後に独立。日立という企業城下町のなかで、「下請けは一切やらない」、「他社と同じようなものは作らない」という経営方針の下、自社製品の開発・設計・製造に取組んできた。そのため、同社は顧客の要望を白紙の状態から聞いて、製品を開発するといった提案型営業により他社との差別化を図ってきた。その結果、他社には真似のできない独自性のある製品や豊かな発想力・技術力を持つ人材を有している。



社屋にも「現代のからくり工房」

複数業務をこなし、課題解決力を持つマルチプレイヤーの育成

縦割組織の弊害を防ぐため、社員には「組織とは業務遂行上の役割分担であり、社員としての行動の枠ではない（社内にある全ての仕事が社員の仕事である）」ことを徹底して指導している。そのため、メイン担当以外の業務もこなせるマルチプレイヤーとして育成している。また同社では「NEVER GIVE UP（決して諦めない）」「仕事は自分で解決せよ」を理念に掲げ、個々の社員が自分自身で課題を発見して解決方法を考える文化を浸透させている。これにより、社員の課題解決能力の向上を実現している。



組立ての様子